

事業所名：グループホーム「ひまわり」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300089		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	〒022-0002岩手県大船渡市大船渡町字山馬越196番地		
自己評価作成日	平成 24年 11月 3日	評価結果市町村受理日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ひまわり」は平成8年に開所し17年目を迎えます。現在、岩手県認知症高齢者グループホーム協会の事務局として、「ひまわり」だけでなく県内のグループホームの質の向上を目指して様々な研修会を企画したり、全国大会等において事例発表を行ったり幅広く活動をしています。また、地域の一員として、今後どのような災害がきても対応できるように、地域と一体となれるような取り組みをしています。今年は2度、地域交流会を開催し、地域の皆様と一緒に防災の意識の向上、認知症の啓蒙活動を積極的にっております。

それから、昨今グループホームの重度化、看取りについて様々な意見がありますが、「ひまわり」においては重度化は当たり前という考えであり、看取りに関してはこれまでの経験を活かして本人、本人の家族、医師、「ひまわり」職員等が連携をし、みんなが納得できるように話し合い、対応しております。ドリームアゲインについても今年も行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0370300089-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0370300089-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設17年目で経験豊かな事業所であり、多くの実績を基に地域密着型サービスの牽引役として活動している。利用者の居住年数が長くなるに伴い重度化が進んでおり、本人・家族の意向を大切にしながら看取りもなされており、「終の棲家」としての役割を果たしてきている。大震災を教訓に地域の防災対策組織を立ち上げるべく、地域交流会を企画し相互の協力体制を確立しつつあり、その集まりの場面では一緒に食べたりおしゃべりしたりと、集う人たちの楽しみも創出されている。またふるさと訪問や思い出の地に向くなど、ドリームアゲインという活動のなかで利用者の思いを受け止めている。長い歴史のなかで培われてきた価値観と実践ノウハウは高い水準にあるが、ケアプランの具体性や看取りの意思共有の難しさなど課題意識も持ち続けており、常に向上しようとする姿勢は真摯である。特に今年度は地域との協働に大きな前進をみせており、これまでの伝統と信頼をベースにしながらも、今いる利用者・家族、職員、そして地域住民と共にこれからもさらに前に進んでいくことが期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年11月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム「ひまわり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「住み慣れた地域でその人らしく最後まで」のもと、事業所では職員みなで理念を構築している。現在は、宮澤賢治の「雨ニモ負ケズ」の精神を反映した理念となっている。	理念は毎年職員で話合って定めているが、今年度は昨年度から継続で、「笑顔・愛・絆・輝き・感謝」等のキーワードと宮澤賢治の雨にも負けずの精神がちりばめられた理念を共有しており、職員にとって思い入れのある理念となっている。	職員の入れ替えが多かったことから十分に話し合いができなかったとの反省も事業所にはある。理念を変えていくことが必然ではないが、ともに暮らす人たちにとって心の通う理念としていく取り組みは今後も継続していつてもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度、運営推進会議を通して、地域住民と意見交換を行っている。また、今年度から地域交流会を開催し、餅つき・ボケー座鑑賞会、芋煮会・民謡大会を行い、地域の方々と交流を深めている。	運営推進委員の協力を得て、芋煮会・餅つき・ボケー座鑑賞会などを企画し地域交流会を開催している。会を重ねる度に参加者や地域の広がりが増えてボランティアの訪問も多くなり交流の輪と和が広がってきている。	地域連携は公的観点から様々な要請が伴うが、そのなかで堅苦しい話だけではなく集まる人たちの楽しみに重点を置いていることは素晴らしい。今後も人と人はなぜ集い、交流し助け合っているのかを自然な在り様からも捉え、取り組みを継続していつてもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小学校や地域住民対象に、法人が認知症の啓蒙活動として行っているボランティア劇団「気仙ボケー座」を見ていただいて、好評を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回スライドショーを作成し、日頃の生活の様子を視覚でも確認して頂いております。利用者の表情が伝わるので、参加者からは好評を得ています。会議終了後はお食事会を企画したりして、参加者に発言しやすい環境となるよう工夫しております。	スライドで生活場面の紹介をするなど参加者にわかりやすい方法をとっているほか、バーベキュー等で話しやすい雰囲気を作り率直な意見や提言をいただく工夫をしている。委員の協力で、地域防災組織立ち上げの話が住民側から提起され課題解決に向かってきている。	防災体制が地域ぐるみで確立されつつあり、これは震災後の沿岸地域におけるコミュニティワークのモデルケースとなりうる。今後も各課題に適した委員の参加を随時求めて地域への広がりGHのサービス向上がより図られるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議においての連携はもちろんのこと、市が主催をする地域ケア会議等に参加し情報交換をしております。何かあれば直ぐに連絡が取れる関係になっております。	市主催の地域ケア会議に参加し、情報交換をしながら何でも話しやすい関係にある。生活保護受給の利用者もいることから各部所との連携も図られている。また地域の自主防災組織の立ち上げについてもアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や職員ミーティングでの勉強会を通して学び、身体的拘束の禁止は当たり前と全職員共通認識しております。施錠に関しては、防犯という事から夜間のみ行なっているが、拘束の意味はまったくない。	職員は研修や話合いで身体拘束の行為を理解し、禁止的な言葉づかいも含めて再確認しながら拘束のない支援に努めている。昼間の施錠は自由にしており、帰宅願望のある利用者は寄り添いと見守りを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や職員ミーティングでの勉強会を通して学び、虐待の防止は当たり前と全職員共通認識しております。ただ、毎日の生活の中で親くなりすぎて、くだけすぎた言葉使いやとっさに出る配慮の無い言葉使いが出ない様、職員同士指摘するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、これらの制度を活用する機会はありませんが、日本認知症グループホーム協会の監事でもあり弁護士である方の研修を通じて学んでおります。何かあれば相談できるようになっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書などの説明を十分にを行い、その上で署名・捺印を頂いております。不安や疑問があればいつの時点でも相談に乗れる事を伝えてあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談及び苦情受付を設けている旨、契約書及び重要事項説明書に記載、玄関にも掲げております。また、運営推進会議や家族会等のイベント等の場を設け、要望が出しやすいような工夫を行っております。	契約時に相談・苦情受付機関の周知をするとともに面会時やイベント開催時に聞いている。利用者の意向は「ひまわり日記」から推し測り、検討しながら運営に反映させている。時には家庭訪問をして意見を聴く機会を作りたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のひまわりミーティングや毎日の朝礼で意見、提案を聞く機会がある。それらが反映できるよう話し合い、取り組んでいる。また、意見が出やすい職員関係を築くためにも職員の交流会も随時開催している。	職員は、「ひまわり日記」ノートなどを参考に、随時のミーティングや話し合いで検討して、管理者に意見や提案を行っており、管理者は必要に応じて法人内の会議に諮りながら運営に反映させている。	職員の異動等により職員不足も含めて、今年度の職員体制はやや不安定な状況にあり、意思共有に課題があったとしている。現状の体制で最善を尽くすとはしているが、長い視野のなかでは法人運営との兼ね合いもみながら、可能な範囲で安定的な職員体制の検討も期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人と職員の絆が深まるように、金銭的な報酬以外にも非金銭的な「心の報酬」として、感謝・ワークライフバランス・文化・成長・環境に心掛けて頂いており、職員のやりがい、向上心の維持につながっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修機会は、全体会をはじめJC PAT勉強会、看護部会など様々な勉強会、研修会があり、積極的に参加しております。外部の研修も積極的に研修機会を頂いております。全国規模の事例発表会として大阪で発表をしてきました。また、オーストラリアで震災関係の発表も行っております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、岩手県認知症高齢者グループホーム協会の事務局を行っており、研修会の企画・開催、県外研修の企画・開催等を通じて岩手県内のグループホームの質の向上に努めております。また、来年は盛岡で全国大会があり、大会事務局も兼任しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方が今何を望んでいるのか、何を必要としているのかを、本人、家族、職員と一緒に話をして相談できる機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に何度か、家族と相談する機会を設けており、その際、傾聴し、家族の困っている事、不安な事を親身になって考え、一緒に解決していこうと思って頂ける事によって、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族、職員と一緒に「その時、入居者が望んでいること、必要としていること」を検討して支援をしています。グループホームひまわりから他のサービスに移行されるときも十分協議をし入居者、家族に負担がかからないように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員は常に「家族」であるという事を、お互い意識しながら、入居者が日々の生活において生きがいを感じて頂けるような生活の役割を発見し、それを実現できるような支援を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人個人の家族さん用の面会ノートを用意しており、面会時にはノートに記入して頂いております。また、面会時や電話でお話する際は、日々の入居者の様子を伝えたり、家族の最近の様子をお伺いしており、入居者、家族、職員の情報の共有に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドリームアゲインとして、ふるさと訪問に力を入れております。利用者の馴染みの場所を訪れる事で、本人のみならず、職員も刺激を受けております。お墓詣りについても積極的に支援をし、家族と一緒に訪れるようにしております。	時節にお墓参りなど家族の協力を得てふるさと訪問に力を入れており(ドリームアゲイン)、今年度は3人の利用者の願いが実現できている。多忙な家族にはケアプラン作成見直し時に利用者とともに訪問し、ふるさとや馴染みの人との関係が継続できるように工夫したいとしている。	長期利用者が多くなるにつれて、在宅時の馴染みの人や場との関係が薄くなるのが想定されるなか、ドリームアゲインの意義は大きい。加えてケアプラン見直し作成時に新たな馴染み関係づくりの視点にも更に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活していると入居者同士で絆が生れてきます。優しい声掛けをしたり、手を貸してくれる時もあります。毎日同じテーブルでお茶を飲み、食事をし、一緒にうたも歌います。時には、口げんかもありますが、それも大切な関わり合いと考え、「家族」という雰囲気作り心掛けています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はサービス利用が終了した方は、お亡くなりになった理由で、2名います。これまでとったたくさんの写真をアルバムにして、葬儀の時に手渡しております。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の願いや希望、嗜好などを把握するように努めております。本人確認の出来ない場合には、家族に伺ったり、生活歴等によりアセスメントを重ねて入居者の意向把握に努めております。	本人の生活歴や主観的な印象をセンター方式に沿ってまとめ、客観的な側面はJCPAT(目でわかる認知症ケアのトータルケアマネジメント)という方法で把握している。そこから利用者の意向や思いをケアプランにつなげていくほか、家族に本人の変化を伝える点でも有効なものとなっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族からお話を伺い、これまでの生活歴、地域性を考慮し、アセスメントを行っております。また、実際に「ふるさとに訪問」を行い、入居者と共に職員も生活環境を肌で感じるよう心掛けています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者、家族からお話を伺い、これまでの生活歴、地域性を考慮し、アセスメントを行っております。また、実際に「ふるさとに訪問」を行い、入居者と共に職員も生活環境を肌で感じるよう心掛けています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を有効活用するためにも、職員みんなで協議した内容を原案とし、入居者、家族に意見や希望を伺い、入居者が今何を望んでいるのか、何を必要としているのかを介護計画として作成している。今年度もJCPATを活用している。	現在のケアプランは利用者本位の視点で丁寧に検討されたものであるが、管理者はより明確なニーズや目標のみえる内容にしたいとの思いをもっている。利用者の生活志向やJCPATによる客観性をベースに、本人がどう暮らしたいのか、そして本人にどう暮らしてほしいのかを本人・家族、そして職員全体で共有していくものとして検討していただいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者について気付きを連絡ノートに記入していません。また、日誌や個別記録に記録し、定期的に行われるミーティングで介護計画の見直しや課題等について話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用については、家族からニーズが多く、継続して実施しております。長く入居されてる方には、多機能支援として、外出、外泊の支援をはじめ「ふるさと訪問」として、馴染みの場所への訪問の支援に心掛けております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年中行事の際等に地域の園児や学童クラブの子供達と交流を図っている。震災後、たくさんのボランティアの方々が慰問に来ます。その気持ちに答えられるように、出来る限り、参加して私たちも楽しんでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は一人ひとりがかかりつけ医への適切な医療が受けれるよう支援できております。また、家族の力を借りながら受診の支援を行っております。入居者の様子がおかしい時は、かかりつけ医の先生に随時相談しております。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が多く、緊急時にも柔軟な対応が可能なか、職員研修等でも協力が得られている。家族による受診を原則としているが、難しい際は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職と職種は違っても日々の生活においては、報告・連絡・相談が常時出来ており、入居者に安心して生活をして頂いております。体調の変化や急変時にも24時間365日途切れることなく対応でき、スムーズな連携を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は2名の方が入院されました。入院されたからといって、病院任せではなく、ほぼ毎日職員が交代で様子を見にしております。本人も安心して様子ですし、何より、家族の方と、より関係性が向上し、病院関係者とも話しやすい関係が出来ました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りを行っている最中です。昨年度から職員がだいたい代わりまして、看取りが初めての職員もいます。しかし、これまでの経験を土台に、実際に職員が経験することでこれまで以上に看取りに対して自信を持って行う事ができると信じています。本人、家族、主治医、他の入居者、職員とが一丸となって取り組んでおります。	主治医の協力のもとに看取りを行なった経験があり、今も終末期を迎えつつある利用者がいる。新任職員には医療機関にまかせたいとの気持ちも時には生じるが、看取りについての研修や先輩の体験を糧にし、全職員が自然体で寄り添い安心できる環境づくりに努めている。	高齢者支援において様々な要因から居場所を転々とせざるを得ない利用者が多い中で、終末期支援にも対応していく姿勢は大きな救いとなっている。その過程で職員や家族の気持ちがゆるめるのも自然なことであり、最後まで支えきったときに自分たちが成したことが理解できていくとも思える。そのような経験を重ねながら、今後も利用者の「ひまわりで暮らし続けたい」という願いに向き合っていってもらいたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の際の医療機関への連携や看護職員への連絡方法はマニュアルも作成しており実践できています。しかし、若い職員や経験の浅い職員もおり、応急手当や初期対応については、定期的な訓練が課題となっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内に防災対策委員会が設置されました。「ひまわり」からも毎回委員会に参加しております。DCAT(緊急介護)についても発足がもうすぐですので、積極的に取り組んでいきます。また、「ひまわり」の地域には自主防災組織がありませんでしたが、この度、自主防災組織の実行委員会が開催されますので、「ひまわり」も地域の一員として参加します。	一昨年の大震災を経験し、法人内の防災対策委員会も再確認されGHもマニュアルの見直しを行っている。地域自主防災組織も立ち上がり災害に備えて対策が進んできている。なお、法人・地域のみならず県内・全国を視野に緊急介護チームによる支援体制構築にも前向きに取り組んでいる。	地域防災組織が立ち上がり、災害を想定した具体的活動が展開されようとしていることは、事業所の長年の関わりが実を結んだものといえる。事業所の防災と共に、地域防災においても住民のより強固な理解と協力が進んでいくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人生の先輩としての敬意や誇りに配慮した言葉かけや対応を職員みんなで心掛けております。しかし、馴染みの関係になればなるほど不適切な言葉使いや対応が出てくる場面がみられますので、職員みんなで声を掛け合って確認しながら直していく努力をしております。	「利用者は先輩」の、心構えで支援に取り組んでいる。家族的な親近感や雰囲気の中で言葉づかいの乱れが出ることもあることから職員同士がお互いに注意し合いながら、利用者のプライバシーを尊重し誇りが傷付かないような支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者の意向に沿った生活が継続できるように心掛けております。ただ、入居者が混乱しないように、職員同士相談しながら入居者の意志を尊重し、職員も必要最小限に支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを整えるという意味で、必要最小限に決まりを設けて、一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと生活支援を行なっています。職員都合が優先されることが少なくなるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で髪を整えることが出来る方には鏡を見て整えて頂き、馴染みのくしを使い髪を結ったり、男性の方は自分専用の電気かみそりで身だしなみを整えています。食事の際、洋服に汚れがついた時は着替えをするように心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の買い物と一緒にいき、食材を選ぶときから食事が楽しみになるよう心掛けてます。調理に関わって頂いたり、ごはんの盛り付け等にも関わって頂いています。食器の後片付けも入居者、職員共同で行うよう心掛けています。	利用者の好みを大切に職員が交代で食事づくりを行なっている。自家菜園の収穫物も活用し和気合い合いの雰囲気の中で食卓を囲んでいる。外食は新任職員が多いなかで現在は機会をもてずにいるが、食環境の変化も楽しみとして、職員が慣れてきたら出かける機会を作っていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量の記録をとって把握し、「食が進まないときがあってもあたりまえ」の考えのもと、1日のトータルとして食事量を考えております。水分量に関しては、お茶の時間を設けてみんなで楽しく飲んでます。進まない時は、好きな物、イオンゼリーなどの工夫で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来ています。総入れ歯であっても、歯茎のブラッシング支援を心掛けています。また、自分で出来る方は、うがい、歯磨きを行って頂き、最後の仕上げの支援を行っています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はその人の様子や、間隔を見ながらトイレにお誘いし、トイレでの排泄を心掛けています。排泄記録によるパターンやサインの把握に努め、排泄姿勢の工夫も行うなど、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	排泄の訴えのない方が多いため、排泄記録を参考に、しぐさなどからサインを見逃さないように誘導して、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表で、一人ひとりの便の出た日、量、状態を職員全員共有しています。毎朝食事前にはヨーグルトを飲んで頂いたり、新鮮な野菜や、食物繊維やビタミンB5の積極的な摂取など食生活にも心掛けています。運動可能な方への働きかけ等も取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、利用者が、入浴時間の希望を話されることはありませんが、楽しいおしゃべりしながら入浴したり、歌をうたいながら入浴したり、個々にそって対応をしておりますが、職員都合の時間帯での入浴となっているのが現状です。利用者の希望を理解できるような工夫が必要だと感じています。	現在、利用者は日中の入浴となっており、こじんまりとした家庭的な風呂場で歌をうたうなど楽しみながら入浴している。現在特に要望はないが、夕方や利用したい時間帯に入浴できるような工夫が必要だとしている。	職員体制の事情もあるが、今後様々な要望が有り得ることも念頭に置いて、柔軟な入浴支援を実現していく方法も検討していただいたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日々の生活に安らぎを持ってもらうため、日々の決まりきった予定表は無く、その方のその日に合わせて生活しています。夜間の安眠に関しては、一人ひとりに合わせたトイレ誘導、パット交換、体位交換をし安眠を妨げないよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者の薬に関わり、目的、用法、用量について把握する努力をしています。薬が変わったときなどは様子観察をし、変化があれば主治医に相談して、アドバイスを受けております。下剤に関してはその日の状況により、細かい取り決めを職員全員で共通理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お魚をさばいてもらったり、干し柿作りを教わったりと入居者さんが主役となって職員はサポートに回りこれまで培ってきた力を発揮していただいている。最近は手作りおやつのお機会を増やし、皆さんに手伝っていただき、好評を得ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近、外出の機会が少なくなってきました。たまに出かけると、皆さん生き生きとした表情になります。今回福祉車両を用意することができ、外出しやすい環境が出来てきましたので、積極的に外出できるように取り組んでいきたいです。	ドリームアゲインとしての故郷訪問などでは利用者は生き生きとした表情が見られる。介護度の高い利用者が多くなったことや職員体制の影響もあり外出の機会が少なくなってきたが、努めて外出できるようにしたいとしている。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	残念ですが、現在は入居者でお金の管理をされている方はおりません。しかしながら、職員もこのままでいいとは思っておりません。今はできなくても、今後できるにはどうしたらよいか模索していきます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を楽しみにしている入居者さんがいますので、出来るだけ家族とお話して頂いています。また、電話を待っているだけではなく、こちらから電話をする機会を設けて、お話をさせて頂いております。ただ、全員出来ているのではなく、2名の方だけです。これから増やしていきたいです。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室など入居者と一緒に季節を感じられるような飾り付けをさりげなく工夫して取り入れています。七夕、お月見など季節を感じてます。また、お花の好きな方に庭からお花を摘んでいただき素敵なお花瓶に入れてテーブルに飾って頂いています。	開設17年目の歴史あるホーム内に季節感ある野の花がそっと飾られている。職員手作りのテラスがホールの外に設えられて、空間が広がり憩いの場としての存在感を示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれ居心地の良い場所があり、入居者同士穏やかに談話する関係が出来ております。時々、気が合わず大きな声を上げる方もいますが、お互い不快な思いをする前に職員が配慮しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた布団や家具を用意して頂いており、それぞれの居室は特色あるものとなっております。短期利用のお部屋は、利用される方に配慮し、畳みを敷いたり、好みの枕にかえたり等、居心地良く過ごせるよう工夫しております。	室内は洋間風にまたは和室風に畳を敷くなど利用者の意向を大切に落ちついて生活できるようにしている。不安感の強い利用者には本人の使い慣れた飾り棚やこたつが在宅時と同じように配置され、安心して過ごせるように配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には手作りの表札があり、自分の部屋が分からなくなっても確認することができる。テラスへいつでも行く事ができ、朝日を浴びたり、気分転換したりできる。			